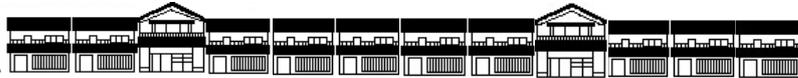


小松ミュージアム



友の会レポート



第27号

令和7年3月31日

編集・発行

小松ミュージアム友の会

〒923-0903

小松市丸の内公園町19

TEL(0761)22-0714

FAX(0761)21-7683

ごあいさつ

小松ミュージアム友の会

会長 宮川 信之

昨年6月のミュージアム友の会事業として「花山院ゆかりの地巡り」をバスで駆け巡りましたが、その頃までには、正月に起きた能登半島地震の被害状況も明らかになり、亡くなられた子供の親たちも数多くおられました。ゆかりの地として額見町にあった気多御子神社を訪れた際、花山天皇御製碑に次の一首と巡り合いました。

「思ふこと 今はなきかな 撫子の 花咲くばかり 成りぬと思へば」。

今は、亡くなった撫子（なでて養う我が子）の花が咲きほこり、我が子を思うばかり。といった意味なのでしょうか。帝の時、寵愛を受けた女御が懐妊中に早逝したため、我が子を手に抱けなかったが、何れはこの髪を撫でたであろうとの哀惜を謳ったものでしょう。花山院は、邸内に萩や撫子などの花が咲き乱れていたことから「花山」と呼ばれ、撫子に対する思いは非常なものであったのでしょうか。抒情的な表現を抑えても、子に対する思いは、千年前の花山院時代であろうと、今と変わらないでしょうし、それが、帝であっても同じでことです。改めて亡くなられた被災者に対しては、冥福を祈らずにはられない。

しかしながら、「生」を繋いで、残された子供たちが、被災を乗り越えて、人生を一步一步進んでもらいたいものです。それを救い、励ましたのが、地震と豪雨の災害の見舞いに三度、来県されている天皇陛下の歌会始での御製でした。

「旅先に 出会ひし子らは 語りたる 目見(まみ)輝かせ 未来の夢を」。

これは、昨年五県を訪れた先々で、県民の皆さんから笑顔で温かく迎えられ、その中には子供たちそれぞれの将来の夢について、詠まれたものです。特に災害の見舞いに3回訪れた能登半島では、被災者と寄り添われた中には、多くの子供たちと視線を交わされたことでしょう。その目の輝きから災害を乗り越え、将来への眼差しが陛下のお心に留まったものと思います。

悲しみの後は、楽しみがよく分かりますと言われます。その落差が大きければ、楽しさ、美しさが人一倍に分かります。それを進ませるのが希望です。と励ましたいものです。

総会・解説会 令和6年4月28日(日)

今年度の友の会は総勢 27 名が入会、総会には 13 人の参加がありました。震災の影響でルフレから絵本館ホールに会場を移し、令和 6 年度の活動がスタートしました。

その後は特別展「長谷川町子がやってきた」宮本三郎美術館「町子の好きなもの」、本陣記念美術館「町子のかぶき案内」の解説会を行いました。

研修 令和6年6月10日(月) 「北陸新幹線と花山院ゆかりの地めぐり」

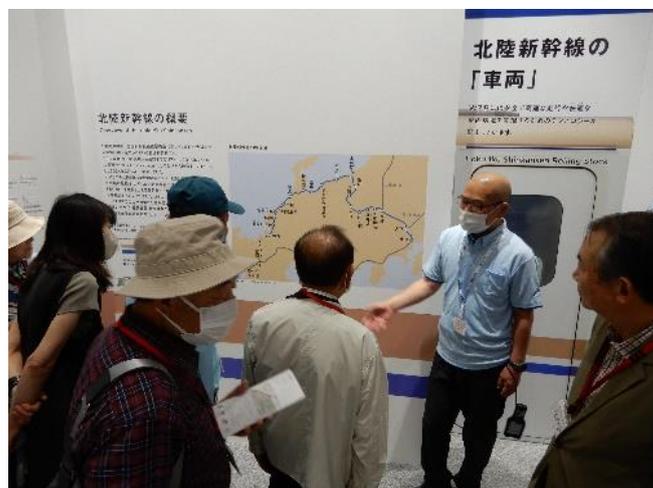
18名の参加がありました。

3 月に北陸新幹線小松駅が開業したことを受け、トレインパーク白山で新幹線について学んだあと、小松・加賀の花山院ゆかりの地とされる各所を巡りました。「光る君へ」では本郷奏多さんが演じた花山院。会長独自の解釈を交え、花山神社(菩提町)、勅使館跡(加賀市)、気多御子神社(額見町)などを巡りました。

感想を一部ご紹介いたします。

近場でいけないところに行けて良かったです。古き良き時代の場所に踏み入れ、どこも手入れされてると感じました。一日リフレッシュできました。

隠れた名所、旧跡を掘り出してもらい改めて歴史の深さを認識しました。



現在放映中の「光る君へ」の時代、花山院の足跡が小松にあること、大変興味深く、ふと小松が身近にあったことに思いをはせることができました。

研修「高岡の工芸と美をめぐる」

令和6年9月10日(火)

秋晴れの中、11名の会員で高岡を巡りました。

午前中に国宝に認定された勝興寺を巡ったあとは、高岡商工会議所のレストラン「松楓殿」で昼食。同建物内にある高峰譲吉「松楓殿」を見学。午後からは高岡市美術館の展覧会「ロートレックとベル・エポック」を見学し、最後は株式会社 能作で小鉢・ぐ



い呑みなどの鋳造体験を行いました。感想を一部ご紹介いたします。

ロートレック、ミュシャなどの作品、またその時代の日本の浮世絵との関係など楽しかったです。能作の製作体験、思ったより難しかったです。良い経験でした。ありがとうございます。

博物館友の会らしい研修内容でした。「国宝勝興寺」歴史や文化財に触れ意義深い研修です。ボランティアさんも「松風殿」昼食会商工レストランは落ち着きもありおいしかった。同場所の「松風殿」高岡市の意気地が感じ取れました。体験も物作りの高岡の町の発展を感じました。

勝興寺は大変きれいで素晴らしかった。楽しいガイドさんや見学者が少なかった為もあり一層よく鑑賞できた。



会員発表 **令和6年12月21日(土)** 「お茶ができるまで ～美味しい一服いかがですか～」

現在も自家消費のための製茶を続けられている小坂泰子会員に、北村麻紀会員を聞き手として、製茶について発表していただきました。

実際に小坂会員が製茶したお茶も振舞われ、会員一同舌鼓を打ちました。

お話を聞いて、「私もお茶を作りたい！」と思われた方もいらっしゃるのではない

でしょうか。令和7年度事業として、茶摘みから製茶ができる体験を企画中です。ぜひ引き続き友の会に入会していただき、あわせてご参加いただけることを事務局一同心待ちにしています。



そのほか、解説会・講演会などを計5回実施しました。